様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　 ５ 月 １５ 日現在

機関番号：３２７０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００６６７

研究課題名（和文）英米児童文学のコーパス文体論的研究

研究課題名（英文）A corpus stylistic approach to English children's literature

研究代表者
奥　聡一郎（Oku, Soichiro）

関東学院大学・建築・環境学部・教授

研究者番号：３０２８８０８９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、英米児童文学のコーパス構築と文体論の手法により、分析ツールWamtrixによる品詞タグや意味タグの付与と統計的な分析を行い、作品の主題にかかわる解釈に資することを示した。特に、ファンタジー作品群の現実世界と想像世界の語彙分布の違い、読者である子供の成長に伴う対象年齢別の児童文学作品と子どもたち自身が書いた作品群の感情表現の類似性を指摘できた。さらに、コーパス文体論の手法が英語教育においても有用であり、コーパスデータ駆動型言語学習のさらなる発展につながることを実践報告、研究成果としてまとめることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
英語教育における教材としても英米の社会文化的背景を映し出す文学作品としても英米児童文学作品に関する文体研究は有用であり、幅広い応用が可能な研究と考えられる。今回の研究成果である英米児童文学コーパスの構築と活用は教材開発においても文学作品の読みを深める上でも大きな役割を果たすことを具体的な品詞タグや意味タグ、Keynessの分析から明らかになった。
このコーパス文体論による分析結果が、ICTの進んだ英語教育の教室でコーパスデータ駆動型言語学習の教材として協働学習をすすめる中で効果的な教材開発につながっていることを実践報告でも示すことができた。

研究成果の概要（英文）：In this study, it can be assumed that the method of corpus construction and stylistics analysis of English and American children's literature contributed to the interpretation of the subject matter of the works by assigning part-of-speech and semantic tags and statistically analyzing them with the analytical tool, 'Wamtrix'. In particular,it was possible to point out the differences in the lexical distribution between the real and imaginary worlds of fantasy works, as well as similarities in the emotional expressions of children's literature works and works written by children themselves, according to the target age range of children readers. Furthermore, I was able to report on the practical application of corpus stylistics in English education and summarize the results of our research as a further development of corpus data-driven language learning.

研究分野：コーパス文体論

キーワード：コーパス文体論　英米児童文学　意味タグ　コーパスデータ駆動型言語学習

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

なぜ児童文学は子供に読まれるのか、その問いに答えるためには二つのアプローチがあると考えられる。一つには、児童文学に備わっている言語的特徴を言語学の観点から網羅的に示すことであり、それらは大人である作家が子供の読解能力に応じた言語上の工夫、すなわち文体を探ることでもある。もう一つは、子供の読解能力と言語処理の方略の観点から児童文学の特質を考えることである。後者は認知科学における実験成果や大人向けの文学との処理方略の違いを比較するなど学際的な知見を必要とする。

本研究は、児童文学の言語に焦点をあて、言語学的文体論の成果を踏まえた分析を行うことを目的とした。コーパス言語学の知見を援用し、その分析結果を言語習得の知見と付き合わせることで児童文学の言語が子供の言語習得の段階や言語能力に応じたものであると仮説を立てた。児童文学や子供の発話に関する大容量コーパスの分析を通して児童文学という包括的なジャンル、さらに時代的な特徴、作家、冒険物語や成長物語などのサブジャンルなどごとに一般的な言語特徴の指摘が具体的な目標である。コーパス言語学の成果である品詞タグや意味タグ別の頻度や分布が、児童文学特有の倫理性、道徳性などの主題の解釈にも有益な言語資料となることを想定した。

英米児童文学作品の時代性、ジャンルの多様性は以前から指摘されており、児童文学を一つのジャンルとして一般化された言語的かつ類型的な特徴を端的に示すことはこれまで困難とされていた。しかし、現在のコーパス言語学や情報処理ツールの発達により、大容量のコーパスデータを駆使してより一般化された言語的特徴の抽出や実証が可能になってきた。本研究では、自らが構築したコーパスだけでなく、他の研究で用いられたコーパスの活用も目指した。

２．研究の目的

本研究は、コーパス文体論の枠組みを用いて英米児童文学の語彙・表現・文体における一般的な特徴を明らかにし、英語教育の教材開発、コーパスデータ駆動型言語学習の可能性を拡げることが目的である。英米児童文学の幅広いジャンルや時代性に基づき、コーパスを構築し、タグの付与から分布や頻度などを精査することで、英米児童文学の文体的特徴とその裏に隠された英米文化における表象、倫理性など主題に関わる解釈に資するような基礎資料となるように分析手法の精緻化を図った。また、研究成果の妥当性を担保するために、年齢別の作品群の特徴と子供の言語発達との相関性を品詞や意味タグの観点から考察する。また、ジャンル別にはファンタジー作品の舞台設定の違いを文体の特徴から明らかにし、作品の主題解釈に資する言語的な指標の考察を試みた。

３．研究の方法

第一段階として英米児童文学の代表的な作品群を、時代・著者・サブジャンル・対象年代別に分類し、それぞれの包括的な言語的特徴を網羅的にレベル別に記述していくことを目標とした。研究の基礎資料はコーパスとし、分析としては作品ごとの品詞タグによる頻度、コロケーション、n グラムなどの特徴的な項目について精査し、英米児童文学の読みやすさを生み出す、語彙レベルの諸相を概観した。また文レベルでは修飾語句、関係詞などの埋め込み型いわゆる複文構造の多寡などの分析の視点を明らかにし、特徴的な観点について考察を加えた。

第二段階として英米児童文学の具体的な作品群（Oxford で書かれたファンタジー、「不思議の国のアリス」、「指輪物語」、「ナルニア国物語」、「ライラの冒険」）に焦点をあて、コーパス化して分析を行った。まず、想像の世界と現実世界でどのように言語表現の違いが表れるかをコーパスの品詞の頻度や Keyword から探った。形容詞や副詞などの品詞に頻度差はなかったが、Wmatrix の意味タグを用いた分析では、明らかに二つの世界に用いられる意味的な要素が異なっていることが明らかになった。現実世界では感情的な表現が、想像の世界ではコロケーションの違反や比喩表現に特徴がみられた。（表１参照）

第三段階として英米児童文学の文体について品詞タグや意味タグなど概括的な文体分析をもとに、感情表現と意味タグの関係を中心に論考にまとめることに注力した。また、英語教育におけるコーパス文体論の応用を目標に、教室でもオンラインでコーパスの文体分析が容易になることや ICT の利活用の進展も視野に入れ、コーパスによる文体分析の手法を教室で行う上での問題点と課題を再確認した。

最終段階として、英米児童文学の文体について包括的な成果をまとめ、英語教育への応用に注力した。英米児童文学コーパスを Wmatrix で分析し、BNC の Sampler Written Imaginative と比較対照する中で、品詞や意味タグの Keyness　analysis をまず行った。

４．研究成果

本研究の中心的な課題である英米児童文学のコーパス構築として、対象年齢ごとにイギリスで編まれた児童文学のアンソロジー(5 歳以下、5 歳向け、7 歳向け、9 歳向け）をコーパス化したものと実際に子供が書いたり、話したりした物語集のコーパス化したものを年齢別に比較対照

することで、書き手の大人が読み手の子供の言語能力にあった文体で児童文学作品を書いているという仮説を検証した。年齢別に接続詞の種類や頻度は同じ傾向をたどることが示されたほか、形容詞や副詞、動詞などに行為動詞から状態動詞、感覚動詞など内省的なものになっていることが明らかになった。

年齢別の児童文学コーパスと子供の書いた物語のコーパスの特徴を比較対照する中で、当初の仮説であった、肯定的な世界観の表出よりは恐れや不安といった要素が児童文学作品にも子供の書いた物語にも共通することが意味タグの分析から明らかになった。

品詞分析から、think, say, see, wish 等の思考動詞, face や head などの身体部所の名詞、small. old, new, strange, beautiful などの新旧、美醜に関連する形容詞、very, again, so, then 等の程度、時間継起に関わる副詞、and, but 等の等位接続詞が特徴的な語彙として指摘できた。(表２参照)

意味タグの特徴では、Degree:Booster, Size:small, Time:old, grown-up, Light 等から児童文学の世界観の表出が指摘できた。(図１参照) 19 世紀以降の児童文学のコーパスを自ら構築したものに、University of Birmingham The CLiC Project の児童文学コーパスを加え、約 20 万語のコーパスに基づいて英米児童文学の俯瞰的な特徴を示すことができた。

The CLiC Project の児童文学コーパスを用い、19 世紀イギリス児童文学の文体的特徴の分析から、児童文学作品の主題や解釈、英語教育のリソースとしての可能性を考察した。教材化の難しさをイギリスにおける GCSE や A-level の教材を利用することで解決できるのではないかという提案を試みた。最後に英語教育におけるコーパス文体論の応用として、コーパスデータ駆動型言語学習 (DDL)の問題点を明らかにした。授業準備の手間、作業効率の悪さ、分析の解釈の難しさを指摘し、教師の役割として文体分析が DDL の課題設定につながることを概述した。教室で学生と文体分析を協働することによって児童文学のテーマと解釈を議論し、言葉への気づきを促すと考えられる。

図１：Key Domain Cloud: ChiLit vs. BNC Sampler
Written Imaginative: Semantic Tags (E) (=LL 6.63)

Tag	O1	%1	O2	%2	LL	Log ratio	Semantic domain
A6.2-	6	0.79	158	0.07 +	17.78	3.47	Comparing: Unusual
X2	3	0.39	22	0.01 +	15.89	5.32	Mental actions and processes
X3.2	11	1.45	834	0.37 +	13.32	1.95	Sensory: Sound
N3.2-	7	0.92	379	0.17 +	12.12	2.43	Size: Small
A12+	3	0.39	75	0.03 +	9.17	3.55	Easy

Tag	O1	%1	O2	%2	LL	Log ratio	Semantic domain
L2	417	1.71	1083	0.49 +	383.26	1.81	Living creatures: animals, birds, etc.
Q2.1	695	2.85	3216	1.45 +	227.39	0.98	Speech: Communicative
A13.3	329	1.35	1256	0.56 +	165.81	1.26	Degree: Boosters
A13.5	76	0.31	149	0.07 +	95.17	2.22	Degree: Compromisers
A13	17	0.07	0	0.00 +	78.74	8.28	Degree

表１：*Alice's Adventures in Wonderland*
Key semantic domains (Top 5) in real world and imaginative world compared to BNC Written imaginative sampler

VV0	VVD	NN1	ADJ	ADV	CON
know	said	face	small	very	and
think	thought	head	dear	again	but
see	answered	voice	low	then	as
let	began	thing	new	never	that
wish	seemed	king	strange	now	if
get	went	hand	beautiful	so	or
say	felt	queen	high	here	when
tell	came	girl	curious	only	than
go	cried	dolly	afraid	down	while
come	went on	door	right	just	where
take	replied	child	young	quite	before
eat	heard	boy	dead	when	for
bless	asked	room	only	yet	after
make	took	way	sharp	how	though
wonder	found	tone	quiet	well	as_if
give	saw	turtle	bright	up	till
like	knew	house	best	out	so
believe	got	rabbit	hot	even	until
mean	gave	place		where	nor
put	made	duchess		too	since
	added	mouse		as	because
	tried	master		ever	as_soon_as
	sat			away	whether
	spoke			always	if
	fell				
	told				
	put				
	turned				
	kept				
	repeated				
	ran				

表２：英米児童文学コーパスの frequency list を比較した品詞別 relative frequency が 0.01 以上の語彙

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 奥　聡一郎	４．巻 14巻
２．論文標題 コーパスで読む 教室のコーパス文体論	５．発行年 2022年
３．雑誌名 英文学研究　支部統合号	６．最初と最後の頁 61 69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20759/elsjregional.14.0_61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 奥　聡一郎	４．巻 50号
２．論文標題 英米児童文学の文体(3)	５．発行年 2021年
３．雑誌名 関東学院大学理工学部建築・環境学部教養学会　『科学／人間』	６．最初と最後の頁 29 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 奥　聡一郎	４．巻 49号
２．論文標題 英米児童文学の文体(2)	５．発行年 2020年
３．雑誌名 関東学院大学理工学部建築・環境学部教養学会　『科学／人間』	６．最初と最後の頁 75 85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 奥　聡一郎	４．巻 48号
２．論文標題 英米児童文学の文体(1)	５．発行年 2019年
３．雑誌名 関東学院大学理工学部建築・環境学部教養学会　『科学／人間』	６．最初と最後の頁 63　69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 奥　聡一郎・小比賀美香子・奥田恭士・寺西雅之	４．巻 5
２．論文標題 文学は医療に貢献できるか: 物語・文体・認知の視点から	５．発行年 2019年
３．雑誌名 JAILA （The Japan Association of International Liberal Arts　日本国際教養学会）　Journal	６．最初と最後の頁 101　104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 奥　聡一郎
２．発表標題 英米児童文学を素材としたコーパスデータ駆動型言語学習（DDL）の展開
３．学会等名 日本国際教養学会(JAILA)第10回全国大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥　聡一郎
２．発表標題 コーパスから読む児童文学と感覚表現
３．学会等名 日本国際教養学会(JAILA)第9回全国大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 奥　聡一郎
２．発表標題 オンラインを活用したこれからの英語授業：オンデマンド、リアルタイム、ハイフレックス、そして…
３．学会等名 言語教育エキスポ2021
４．発表年 2021年

１．発表者名 Soichiro Oku
２．発表標題 Imaginative Wor(l)ds in Children‘s Literature: A Corpus-based Approach
３．学会等名 International Association of Literary Semantics, IALS 2019 in Reykjavik（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Soichiro Oku
２．発表標題 A Corpus-based Approach to ‘Crossing Borders’ in Children’s Literature
３．学会等名 Poetics and Linguistics Association, PALA 2019 Conference in Liverpool（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Soichiro Oku
２．発表標題 A corpus-based approach to ‘an unreliable narrator’ : The case of “The Remains of the Day”
３．学会等名 Poetics And Linguistics Association (PALA)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 奥　聡一郎
２．発表標題 コーパスから読む児童文学と教材化の課題
３．学会等名 日本国際教養学会(JAILA)第8回全国大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関